

志望校が早い段階で明確になり、受験勉強に集中できる 群馬県立渋川高校

学校見学会・大学模擬講義・オープンキャンパスを段階的に行う

実施概要

1・2年次に集中させる体験学習。 積極的な進路選択につなげる

群馬県立渋川高校のほとんどの生徒は大学に進学。そのため進路指導は大学選び、学部・学科選びへの支援が中心だ。1～2年次に様々な学校情報や学び情報に触れ、進路を考える。2年次の12月～2月にかけて、2年間の進路学習の集大成ともいえる志望校・学部・学科、試験内容、試験日、かかる費用などをまとめた「進路実現レポート」を作成する。3年次は志望校への合格を目指し、勉強にスパートをかけるため、実質的な進路学習は1～2年の間が中心で、時期に応じた3つの体験学習を実施。次第に進路選択意識を高めていく。

まず1年次は、「学校見学会」に全員参加。理系コース、文理コース、文系コースと3つの学校見学コースを準備し、生徒はいずれかのコースで国公立+私立のそれぞれ1校ずつをパスで見学する。日ごろ、都心部に出る機会の少

3段階で行なう進路体験学習

1学年11月

学校見学会

事前に、有志の生徒たちが、見学する予定の学校情報などを調べてまとめた冊子を作成し、学年全員に配る。見学会終了後はアンケートと感想文(600字)を全員提出。

1学年11月

大学模擬講義

文系・理系それぞれに5人ずつの大学の先生が、出張講義を行う。生徒は興味を持った2コマを選択して受講。これは、2年生も参加する。

2学年8月

オープンキャンパスプログラム

基本的に大学進学希望者は全員参加。ただし強制ではない。参加する大学のオープンキャンパスを選び、仲間を募り、交通機関などの計画書を作成して、夏休みを利用して実行。事後は、アンケートを提出。学年によっては感想文を書かせることもある。

ない生徒たちに、大学とはどういうところかを肌で感じ取ってもらう。引き続き、大学教授を招き、模擬講義を実施。大学での学びの面白さを実感させる。その上で、自分の意志で学校を選択し、自発的にオープンキャンパスに参加する。

POINT

生徒の反応を徹底的に分析し 自校に合った体験学習を目指す

同校では、自校の生徒の反応を確かめながら、より生徒が満足し、効果を生むことができる体験学習の実践にこだわっている。

「当校では、あらゆる場面で生徒のアンケートを取ります。そして、すべて経年でそのデータを比較し、“今年はどうしてこういう結果が出ているか”ということをしっかり分析します。そうすることによって、より生徒の心に響く体験学習が実施できると考えていますから(進路指導主事・保科昇先生)

「オープンキャンパスプログラム」では、あくまでも生徒自らの意志で参加することを重視している。生徒には、どこに行くか、誰と行くか、どうやって行くかなど、行動計画を立て、計画書(右図参照)を自分で作成するよう指導することで「自発的な行動」に結びつけている。

一方、模擬講義では、毎年進路指導担当者が直接交渉して文系・理系それぞれ5人ずつ計10人の大学の先生を招く。その交渉だけでも相当の苦勞がある。大学に何度も足を運んで交渉し、知人やOBのツテを頼って面白いような講義をする教授を探した。模擬講義までの間にも、何度も打ち合わせを実施。その甲斐あって、生徒の評価は高くなり、「細部までこだわって努力して初めて、生徒の心は動く。」を実感した。

>> School Data

生徒数 / 640人 普通科16学級・男子校
進路状況(2005年度) / 大短進学76.6%、専各進学
2.9%、就職0%、その他(浪人含む)20.5%

群馬県渋川市並木町678-3

TEL 0279-22-4120

URL <http://www.sibukawa-hs.gsn.ed.jp/>

POINT

生徒の自主性を伸ばすため あえて発表・報告をなくす

体験学習の場合、事後報告会や発表会を実施する学校は多い。渋川高校でも、当初、オープンキャンパスプログラムでビデオ撮影をしたり、詳細な報告書を作成するなど、工夫を凝らした報告会を行っていた。しかし、それだと「発表のために素材を集めた」という印象が強くなり、本来の「自分の進路選択のために自分の目で見て、感じ、考える」ことがしにくくなっていったとの反省が出た。そのため、現在は、あえて報告会を廃止。アンケートの提出に加え、学年によっては簡単な感想文を提出させる程度にとどまっている。「体験学習は、実際に生徒が何を感じたかが重要です。各学年の担任の先生に、その学年の生徒たちにふさわしいやり方ができるよう、フレックスに対応しています。事前の準備をいつから始め、どのような資料を提供していくか。全体の流れの中で捉えるようにしてもらっています」

オープンキャンパスプログラムの計画表

この計画表は、「キャリアガイダンス.net」(<http://www.career-g.net/>)でダウンロード可能です

【Column】大学体験 3事例

2年連続でオープンキャンパス体験。 段階的な目標設定で進路意識が向上

1年次では大学の雰囲気を知る目的、2年次では志望校をまわってレポートを作成することを課題として、2年連続でオープンキャンパスに参加させている。1年次から大学を体験することで、進路を早い段階から意識し始める生徒が多いそうだ。また、附属のメリットを活かし、1年次に「1日神大生」を実施。高校生向けの特別授業と、実際の大学授業を受ける。

神奈川・私立神奈川大学附属中学・高校

生徒数 / 1354人 全日制普通科全19クラス(中・高合わせて)

進路状況(2005年度) / 大短専各100.0%

神奈川県横浜市緑区台村町800

TEL 045-934-6211

URL <http://www.fhs.kanagawa-uc.ac.jp/>

学校企業見学会バスツアーで 自主的なオープンキャンパス参加を促進

2年生全員を対象に平日、学校企業見学会を実施。午前4コース、午後はそれがさらに2つに分散、コースを多くすることで、できる限り生徒の志望に近い進路先を見学できるようにしている。進路を考えるいい動機づけになっているようで、なかなか県外へ出ない生徒たちだが、自主的にオープンキャンパスに参加するきっかけにもなっているそうだ。

群馬県立桐生西高校

生徒数 / 477人 全日制普通科全13クラス

進路状況(2005年度) / 大短専各進学70.0%、就職17.0%、その他13.0%

群馬県桐生市相生町3-551-1

TEL 0277-52-2455

URL <http://www.edu-c.pref.gunma.jp/gakko/kou/kinirisi>

指定校推薦受験の生徒には オープンキャンパスを義務づけ

指定校推薦による受験を志望する生徒には、オープンキャンパスへ行くことを義務づけている。大学について知らずに入学できると考える生徒も多いが、それは大学に失礼という考えからだ。多くの生徒は2~3校は訪れる。また、学校主体でも大学見学会を実施。結果、生徒は合計4~5校見学する。自分にどこが合うのか、いい判断材料になっている。

大阪・私立北陽高校

生徒数 / 725人 全日制普通科全20クラス

進路状況(2005年度) / 大短専各進学76.0%、就職20.0%、その他6.0%

大阪府大阪市東淀川区上新庄1-3-26

TEL 06-6328-5954

URL <http://www.hokuyo-h.ed.jp/>